

第 29 回全国小学生作文コンクール

「わたしたちのまちのおまわりさん」

受賞名：国務大臣・国家公安委員会委員長賞（低学年の部）

タイトル： わたしが見つけた様々な「助ける」

氏名： 門坂 由利子（カドサカ ユリコ）

小学校名：山形県 米沢市立南部小学校 三年

おまわりさんは、時にはやさしく、時にはきびしく、わたしたちの平和な暮らしを、助けてくれています。その形にも、場面によって、様々な「助ける」があります。

学校に来てくれたおまわりさんは、えがおがすてきな女せいけいかんさんでした。七月のひなくんれんの時のことです。その女せいけいかんさんは、

「ふしん者は、かならず黒い服を着たおじさんだけではないです。あめあげるからついて来てとか、車にのって声をかけてきたりしたら、その人はふしんしゃです。」

と、教えてくれました。わたしは、黒い服を着たおじさんのイメージでぼうはんポスターをかいたことがあり、その考えをかえて注意しようと気づかされました。

前にお父さんから聞いた話です。お父さんは、ドラッグストアの店長をしています。

ある日、おまわりさんと、小学生の男の子と、そのお母さんがお店にやって来ました。男の子のした万引きを、いっしょにあやまりに来たそうです。きっとその時のおまわりさんは、真面目できびしい表じょうをしていたと思います。お父さんはざんねんな気持ちで、「二どとしないでください。」

と伝えたそうです。お母さんは、すごくおこっていたらうし、男の子は、はんせいして泣いていたと思います。おまわりさんには、悪い事をした人を正しい道に行かせる仕事もあるんだなとあらためて思いました。

ごくたまに、事こげん場を見かける事もありますが、そんな時は、おまわりさんがゆう気を持ってかけつけているのだと思います。

おまわりさんは、それぞれの場面におうじた力が出せるからこそ、人を助け、しんらいされるのです。わたしも見習って、回りの人を助けられるような人になりたいです。